

水曜通信33

東北学院宗教センター編

2023年
12月

第68回 水曜公開礼拝

2023年12月20日(水) 18:30-19:00



<礼拝次第>

前 奏：L.C.ダカン作曲 「スイスのノエル」

讃美歌：讃美歌21 241番「来たりたまえわれらの主よ」

聖 書：ルカによる福音書 2章8-14節

讃美歌：讃美歌21 265番「天なる神には」

説 教：「神には栄光、地には平和あれ」

頌 栄：讃美歌21 25番「父・子・聖霊に」

後 奏：G.フリーゲル作曲 「高く戸を上げよ」



説教
大学宗教主任
藤野 雄大



演奏・第2部演奏
教養教育センター教授
大学オルガニスト
今井 奈緒子

後奏の後、今井 奈緒子氏（大学オルガニスト）によるオルガン演奏による賛美を行います。

次回第69回水曜公開礼拝は2024年1月17日です。

第67回 水曜公開礼拝報告（説教：松井 浩樹、奏楽：小野 なおみ）

2023年11月15日（水） 18：30－19：00

讃美歌 122番「みどりもふかき」
聖書 マタイによる福音書 18章10-14節
讃美歌 390番「やさしくともをむかえよ」
説教題 「迷わずにいた99匹の羊」
頌栄 541番「ちちみこみたまの」



【説教要旨】

一匹の羊の復帰を、九十九匹に属する私たちがどれだけ真剣に願う求め、そのことを喜ぼうとしているかが問われています。私たちの羊飼いにたとえられる主イエスは、この失われた一匹の羊の復帰のために全力を尽くされます。主イエスはそのために、ご自分の命をささえもお与えになられたのです。聖書に記される主イエス・キリストとはそういう方です。主イエスが私たち九十九匹を山に残しておいて、失われた一匹を捜しに行く、そしてその一匹を見つけたなら、私たち九十九匹のことよりも、その一匹のことをこそ喜ぶ方であられることを受け入れることであり、その主イエスの喜びを共に喜ぶ者とされる私たちであるのです。（東北学院中学校・高等学校宗教主任 松井 浩樹）

前奏：H.シャイデマン作曲「天にましますわれらの父よ」1,2節

後奏：M.レーガー 作曲「強き王なる主をほめまつれ」

前奏は北ドイツオルガン楽派を代表する一人で、ハンブルクの聖カタリナ教会のオルガニストを務めたシャイデマンの作品です。ルターによる主の祈りの讃美歌をテーマとしています。後奏はドイツの後期ロマン派を代表する音楽家、レーガーの作品です。レーガーのオルガン曲は重厚かつ長大な作品で知られる一方、礼拝音楽向きの小品も数多く残っています。（礼拝オルガニスト 小野 なおみ）



礼拝とその後19時00分から30分までの小野なおみ氏と佐藤由子氏によるオルガンとマリimbaによる賛美に51名の方が参加されました。

礼拝後、音楽による賛美（オルガン演奏：小野 なおみ、マリimba演奏：佐藤 由子）

- ヨハン・ルートヴィヒ・クレープス作曲 喜べ、わが魂よ
- ジャン・アラン作曲 「光の創造主」による変奏曲
終課のための後奏曲
- アニー・ローリー 幻想曲

クレープスはバッハの愛弟子であり、バロック時代末期にバッハの作風を受け継いだオルガン曲を多く残しています。この作品はコラル・ファンタジーと呼ばれる形式であり、テーマとなっているコラルが華やかな装飾や様々な技法を用いて即興的で自由に展開されます。

アランは10代の頃から音楽の才能を発揮し、東洋の音楽やジャズなどに影響を受けた作品を次々と生み出しましたが、第二次世界大戦中に29歳という若さで戦死しました。本日演奏するのはカトリック教会の終課（夕の祈り）で歌われる聖歌をアレンジした2曲です。「光の創造主」は夕闇が迫る中、罪に沈むことなく清められることを願う聖歌であり、終課のための後奏曲はゆったりとした子守唄のように夕の祈りが捧げられます。

「アニー・ローリー」は実在の女性について歌っているスコットランド民謡ですが、その旋律に「神の御子にますイエスのために」という別な詞がつけられた賛美歌にもなっています。本日演奏する曲は、序奏、アニー・ローリーのテーマ、変奏1、変奏2、終曲という構成です。佐藤由子さんによるマリimba技法の数々をお楽しみください。

（小野 なおみ）



宣教師たちの生涯と思想 (9)

エルマー・ハロルド・ゾーグ (Elmer Harold Zaugg) の生涯

これまで本学と縁のある宣教師たちについて紹介してきましたが、最後の数号で紹介したいのが、ゾーグ先生です。ゾーグ先生は、1881年オハイオ州に生まれ、同州のハイデルベルグ・カレッジおよび同神学校を卒業した後、1906年に宣教師として来仙しました。1916年には、シカゴ大学で博士号を取得し、東北学院では主に新約学を担当しました。ゾーグ先生は、1936年に東北学院の神学部が、東京にあった日本神学校と合同する形で廃止された時、最後の神学部長でした。神学部廃止後は、理事長、高等部長の要職を歴任しましたが、日本の反米感情が日毎に高まる中で、1940年には両職を辞し、さらに日米開戦直後の1941年には約半年間にわたり、警察の監視下でニナ夫人と共の抑留生活を余儀なくされました。戦時下で日本を離れざるを得なくなり、婦米し、米政府関係の仕事に就いたそうです。戦後、宣教師として再び日本に戻ることを希望しましたが、年齢と健康状態を理由に認められませんでした。その後も、日本の友人と文通し、彼らが渡米した際には自宅に招くなどの交流はありましたが、結局、ゾーグ先生本人の来日は叶わず、1971年に89歳の生涯を閉じました。ゾーグ先生の生涯は、開学以来続いてきた宣教師と本学の関係の転換点を示していると言えます。(大学宗教主任 藤野 雄大)



ゾーグ先生とご家族の写真、当時秘書をしていた鈴木義男も映る。東北学院史資料センター蔵

— 建築が語る東北学院の歴史 (24) —

大正6年(1917)に東北学院神学部(別科)を卒業し、牧師と建築家の二足の草鞋を履いた羽生義三郎氏に焦点を当てて、3回連載してきました(宮城県:岩沼教会、岩手県:一関教会、福島県:喜多方教会)。4回目の今回は、山形県です。日本基督教団新庄教会を紹介します。

新庄における日本基督教会の伝道拠点は、明治37年(1904)、ヘンリー・K・ミラー宣教師によって開かれました。明治39年に赴任した阿曾沼幸之助師(東北学院卒)が発展の基礎を築き、同44年の伝道教会設立を経て、昭和13年に独立教会の1つに選定されました。

会堂の建設は、大正中期から具体化していったようです。『新庄教会百年史』には、大正10年(1921)に土地を購入して建設計画を作成し、同12年に牧師館が竣工した、とあります。斎藤一牧師(東北学院卒)の時代で、設計者は、斎藤師と同年に東北学院神学部別科を卒業した羽生です。

現在の会堂が建築されたのは、牧師館の竣工から12年を経た昭和10年(1935)です。残念ながらその設計者名を記録に見つけることは出来ませんが、建築の個性や特徴から、羽生義三郎の手で牧師館と同時に計画されていた会堂が、12年後に日の目を見たものと見做されます。

(工学部 崎山 俊雄)



竣工時の新庄教会
(『新庄教会百年史』より)



現在の新庄教会(外観)



現在の新庄教会(内観)

2023年度 クリスマス礼拝のご案内

❖ 第1回 五橋クリスマス ❖

日 時：2023年12月8日（金）18：30～20：00
 場 所：五橋キャンパス 押川記念ホール
 詳 細：第1部礼拝 第2部クリスマスコンサート 第3部点灯式

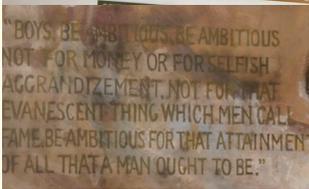
❖ 第74回 公開東北学院クリスマス ❖

日 時：2023年12月15日（金）18：30～20：30
 場 所：土樋キャンパス ラーハウザー記念東北学院礼拝堂
 講 教 者：荒木 聡氏（フェリス学院中学校・高等学校宗教主事）
 説 教 題：『あなたは、神から恵みをいただいた』

昨年まで泉で行われてきたクリスマスが、今年は五橋キャンパスの近隣にお住まいの方々をはじめ市民の皆様にご開して開催されます。そしてコロナ禍により動画配信となった公開東北学院クリスマスも4年ぶりに土樋キャンパスの礼拝堂で対面で開催されます。今年のクリスマスは東北学院大学で共に祝いましょう！（宗教センター主任 原田 浩司）



美術による賛美（24）日本のキリスト教美術（1）



2013年10月8日撮影

過日11月11日、キリスト教文化研究所の研究フォーラムとして田中忠雄についての講演会が、田中忠雄のお孫さんの田中知雄氏によって開催された。日本のプロテスタント美術は、田中忠雄をパイオニアとして渡辺禎雄そして現代では渡辺総一と評価されている（Rowena Lovrance, Christian Art, 2007）。田中忠雄の父である田中兎毛は、新高襄が明治19年に仙台に設立した東華学校の教師としてしばらく仙台に滞在していたこともあり、田中忠雄も泉礼拝堂にステンドグラスによる名作も制作しているので、田中忠雄の画業は本学には関係深い。しかし田中忠雄の画業は、聖書主題の作品以外はあまり知られていないし、調査もされていないのが現状である。例えば札幌の旧道庁には「青年よ、大志を抱け」との言葉で有名なクラーク博士との「鳥松での別離」を描く1971年制作の大作がある。画面の左下にはこう記されている。Boys be ambitious, be ambitious not for money or for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame, be ambitious for that attainment of all that a man ought to be. この大作は、田中忠雄がルオーに近い表現主義で描いた聖書物語とは異なっている。聖書の登場人物と違って歴史的に近い聖者の描き方を変える例は中世イタリアやセルビアにもあった。田中忠雄の画業の研究は、これからである。（史資料センター客員研究員 鏗木 道剛）



いのち

ひかり

あい

東北学院スクールモットー
 LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

東北学院宗教センター編「水曜通信」
 第33号

2023年12月6日発行

〒984-8588 仙台市若林区清水路3-1

発行責任者：宗教センター主任 原田 浩司
 東北学院宗教センター TEL：022-354-8310

Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp